

撮影：木奥恵三 Courtesy Mizuma Art Gallery



**AIDA Makoto**  
安吾賞 会田誠 美術家

# 授賞式

新潟市ゆかりの作家である坂口安吾は、文学をはじめ多くの分野において何事にも一生懸命に挑み続ける人であった。安吾の精神を具現し、さまざまな分野で挑戦し続けることにより、わたしたち日本人に喝を与えた個人または団体を表彰する「安吾賞」。挑戦者を応援する新潟市は、第8回の安吾賞受賞者として、美術家『会田誠』氏を選出した。

# 安吾賞

ライブペインティング × 即興演奏 授賞式・インタビューほか

2014/1/16 (木)  
18:30~20:30 (予定)  
(開場 18:00)

# LIVE!

新潟市音楽文化会館  
入場無料 (要申し込み)

# OTOMO Yoshihide

新潟市特別賞 大友良英 音楽家



## 募集中

応募締切

1/7 (火) 必着

① 授賞式観覧者

② 即興演奏出演者

申込方法◎往復はがきに「安吾賞授賞式観覧」、参加人数(2名まで)、代表者の郵便番号・住所・氏名・電話番号を記入し、〒951-8550(住所不要)新潟市文化政策課「安吾賞係」へ  
定員◎500名(応募多数の場合は抽選)  
入場料◎無料(要申し込み)

内容◎授賞式内で20~30分間即興演奏に参加(大友良英さん監修)  
条件◎授賞式1/16(木)と前日1/15(水)18:30~20:30のリハーサルに両日とも(いずれも音楽文化会館)参加できる方で、音の出るものを持参できる方。(ヴォーカルは対象外です。なお、電気系楽器や自作の特殊楽器の場合は、アンプも含め自前の機器でPAを使わずに音が出せ、指揮に即座に対応でき、セッティングに時間と場所をとらないこと、アンプは小型のものを使うことを条件とします。)

申込方法◎往復はがきに「安吾賞授賞式出演者」、郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号・使用する楽器を記入し、〒951-8550(住所不要)新潟市文化政策課「安吾賞係」へ  
募集人員◎15名(応募多数の場合は抽選)  
参加費◎無料(交通費は自己負担)

問い合わせ先:  
【安吾賞事務局】新潟市文化政策課  
TEL.025-226-2563



新潟市

# 第八回 安吾賞

## 美術家 会田誠

【あいだ・まこと 略歴】 美術家。1965年新潟市生まれ。1991年東京藝術大学大学院美術研究科修了。

絵画のみならず、写真、立体、パフォーマンス、インスタレーション、小説、漫画など表現領域は多岐にわたる。ミヅマアートギャラリーを中心に国内外の展覧会に多数参加。近年の主な展覧会に「アートで候。会田誠・山口展覧」（上野の森美術館、2007年）、「THE BEAUTY OF DISTANCE: Song of Survival in a Precarious Age」（第17回シドニービエンナーレ、オーストラリア、2010年）、「Medi(ation)」（第3回アジアアートビエンナーレ、国立台湾美術館、台中、台湾、2011年）、「The Best of Times, The Worst of Times, Rebirth and Apocalypse in Contemporary Art」（第1回キエフビエンナーレ、ウクライナ、2012年）など。2012年11月から4ヶ月半に渡って開催された東京・森美術館での大規模個展「天才でごめんなさい」には約49万人の観客を動員した。小説「青春と変態」（ABC出版、1996年）、漫画「ミュータント花子」（ABC出版、1999年）、エッセイ集「カリコリセンとや生まれけむ」（幻冬舎、2010年）、「美しすぎる少女の乳房はなぜ大理石でできていないのか」（幻冬舎、2012年）など著作多数。自身の制作を追ったドキュメンタリー映画に「≡会田誠～無気力大陸」（B.B.B. Inc.、2003年公開）、「駄作の中にだけ俺がいる」（Z-factory、2012年公開）がある。

# 無頼、再び。

撮影：木奥恵三  
Courtesy Mizuma Art Gallery



あぜ道 1991 豊田市美術館蔵 撮影：宮島登  
© AIDA Makoto Courtesy Mizuma Art Gallery

### 新潟市特別賞

## 大友良英 音楽家



【おおとも・よしひで 略歴】 ギタリスト/ターンテーブル奏者/作曲家/プロデューサー。1959年横浜生まれ。十代を福島市で過ごす。常に同時進行かつインディペンデントに即興演奏やノイズ的な作品からポップスに至るまで多種多様な音楽をつくり続け、その活動範囲は世界中におよぶ。映画音楽家としても数多くの映像作品の音楽を手がけ、その数は70作品を超える。近年は「アンサンブルズ」の名のもとさまざまな人たちとのコラボレーションを軸に展示する音楽作品を手がけると同時に、障がいのある子どもたちとの音楽ワークショップや一般参加型のプロジェクトにも力をいれている。2011年の東日本大震災を受け、遠藤ミチロウ、和合亮一とともにプロジェクトFUKUSHIMA!を立ち上げ、この活動で2012年には芸術選奨文部科学大臣賞芸術振興部門を受賞、現在も活動を継続中。2013年にはNHK朝の連続ドラマ「あまちゃん」の音楽を手がけ、数々の曲をヒットチャートに送り込む。著書に『MUSICS』（岩波書店）、『大友良英のJAMJAM日記』（河出書房）、『ENSEMBLES』（月曜社）『クロニクル FUKUSHIMA』（青土社）『シャッター商店街と線量計』（青土社）等がある。

### 坂口安吾年譜



**生誕** 明治39年（1906）10月20日、新潟市に生まれる。学校に馴染めず、ひとり日本海に面する浜辺に寝ころんで思索した。荒蕪たる風と日本海の風景は安吾文学の原風景といえる。

**余は偉大なる落伍者となつていつの日か歴史の中によみがえるであろう** 大正11年、落第が決定的となり東京の豊田中学3年に編入。この時、新潟中学校の机のふたに「余は偉大なる落伍者となつていつの日か歴史の中によみがえるであろう」と彫ったという。卒業後、下北沢の分教場の代用教員となり自然の中に児童たちと遊んだ。この頃から求道の厳しさに対する憧れが強まる。

**求道者、安吾** 大正15年、東洋大学印度哲学倫理学科に入学。悟りを開くため多くの哲学宗教書を読破、睡眠4時間という厳しい修行生活を1年半続

け神経衰弱に陥ったが、それを梵語、パリー語、チベット語、フランス語、ラテン語などを猛然と勉強することにより克服した。

**文壇デビュー** 昭和6年、『木枯の倉倉から』、『ふるさとに寄る讃歌』、『風博士』を発表、文壇デビューを果たす。失恋の痛手を克服する決意のもと執筆した長編『吹雪物語』は酷評され、安吾は自分に絶望し、転居を繰り返し自らを孤独の淵に置きながら、どん底の淪落の生活を送る。しかし『紫大納言』（S15）、『木々の精、谷の精』（S15）などの新境地をひらく。

**小菅刑務所・ドライアイス工場・軍艦に見いだす必然の美** 昭和17年、国粹主義の時代、大胆な『日本文化私観』を発表し、伝統文化を鷓呑みにすることの欺瞞を指摘した。

**墮ち切ることに真実の救いを発見せよ** 昭和21年、敗戦後の昏迷の中でいち早く戦後の本

質を洞察し、4月『墮落論』、6月に『白痴』を発表。この2編は、若者を中心に戦後虚脱していた日本人に強い衝撃を与えた。戦前戦中の倫理観を捨て新たな生き方を指し示す革命的宣言は希望の書となり、『墮落論』によって戦後の日本が再スタートした。昭和22年『風と光と二十の私と』、『桜の森の満開の下』、『不連続殺人事件』、『青鬼の禪を洗う女』を発表。**戦う安吾** 昭和25年、『安吾巷談』を連載し、戦後のタブーに挑戦する。昭和26年国税局と税金滞納、差押えをめぐって『負ケラレマセン勝ツマデハ』を発表。税金闘争をひとり戦い抜き、同年9月には競輪不正事件で自転車振興会を相手どり戦う。『夜長姫と耳男』（S27）発表。

**急逝** 昭和30年（1955）2月17日、古代史の雄大な構想とともに、原風景に由来する創造活動に意欲を燃やしはじめた矢先に、桐生の自宅で脳溢血で急逝した。享年48。

第8回 安吾賞 授賞式 2014 1/16 (木) 18:30～ <入場無料・要事前申込>

新潟市音楽文化会館・大ホール (新潟市中央区一番堀通町3-2)

問い合わせ先:【安吾賞事務局】新潟市文化政策課 TEL.025-226-2563

新潟市 安吾賞 Q

Ango  
ANGO Awards

